

平成31年度与勝高等学校学校評価表（自己評価）

平成31年度与勝高等学校学校自己評価 評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教 育 目 標	①協働体制の強化	①学年会、部会、教科会の計画的運営と連携強化	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメント研究指定校の取り組み ・見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ・中高一貫教育体制充実に向けた中学と高校の連携強化
	②教育環境施設設備充実	②学習環境の整備、自習室の整備、各種講座への対応	B	
	③中高教育課程研究改善	③進路実現に対応する教育課程の研究	A	
	④保護者や地域、関係団体連携強化、情報発信	④合同研修会、地域行事等への参加、HP更新	B	
	⑤進路決定率の向上	⑤各種講座及び模試の実施、自習室の整備、資格取得奨励、キャリア教育推進、6カ年を見通した計画的進路指導	B	
	⑥特別活動の充実	⑥生徒会活動、HR活動等自治活動の活性化と部活動奨励	A	
	⑦中途退学者0	⑦担任、教科担任、教育相談、カウンセリング、学籍、保護者との連携で中途退学者0を目指す	B	
	⑧いじめ0	⑧生徒観察、教育相談等で早期発見・未然防止	A	
	⑨基本的な生活習慣の確立	⑨全職員ベクトルで生徒指導の充実を図る	A	
	⑩健康管理の推進	⑩健康診断等の推進、衛生委員会の活性化	A	
	⑪教職員研修の充実	⑪OJTの奨励、校内研修4回実施、校外各種研修会参加の奨励	A	
	⑫職場の環境作り	⑫中高職員の意識を揃える、ノー部活デー、ノー残業デー実施	B	
	⑬危機管理体制の確立	⑬服務研修・安全講習会の複数回実施、危機管理マニュアルの活用	B	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
高校 1 学年	(1) 勤怠・身なり指導の統一徹底を図る。	(1) 学年で意思統一をし、生徒支援部と連携して段階指導を徹底する。	B	○学年で意思統一し、生徒支援部と連携して段階指導を徹底する。 ○服装容儀のその場指導を徹底する。 ○定期的に学年集会を行う。 ○教室内の整理整頓
		(2) 服装容儀のその場指導を徹底する。定期的に学年集会を行う。	B	
	(2) 美化意識を高め、清掃の徹底を図る。	(3) 教室内の整理整頓及び戸締まりを徹底する。	B	
	(3) 生徒の実態を把握し、基礎学力の向上を目指す。	(4) HR 担任と教科担任、各係との情報交換に努める。	A	
	(4) 適切な進路指導を行う。	(5) 進路指導と連携して、早期に進路に対する意識を高める。	B	
	(5) 学級活動・学校行事に積極的に参加する。	(6) 学校行事等に学年全体で取り組む。 (7) 基本的な学力の定着に向けて、学年全体で取り組む。	A B	
高校 2 学年	(1) ①家庭学習の習慣化 ②朝学の自主的な取り組み	①各教科担任と連携し、授業で指導した課題へ取りこませる。「今⇄未来手帳」等の活用で、生徒の学習状況を確認。	B	○特進クラスと普通クラスの入替えに課題が残った。 ○探究活動「よかたん」に課題が残った。アンケートの実施方法や最終発表の時期が、学ねm っ末考査の直前で発表に力をかけられなかった。
		②8：40からは「スタート」ということを意識させる。クラスのリーダーの自主的な呼びかけの促し。（朝学開始のチャイムが鳴る前の勉強用具の準備、準備を始めている生徒への声掛け、準備をはじめずに廊下でたむろしている生徒への注意を、生徒どうしで注意できる雰囲気づくり）。	B	
		③教科担任と連携し、勉強会・補習などを計画する。	B	
	(2) ①早期の希望進路決定、明確化	①・就職、進学など、各ガイダンスへの参加を促す ・進路室利用の促進 ・三者面談（必要であれば、その事前の個人面談）	A	
	②希望進路実現に向けての早期からの取り組み	②希望進路実現のために必要な教科等（就職であれば必要な“力”など）を確認・認識させ、その取り組みとして必要なことを促す。	B	
③3年0学期における取り組みの充実	③自己の進路をより具現化し、希望進路実現へ向けた動きを活発化させる。	B		

	(3)①学習環境の整備	① 服装を常に整え、外見の落ち着きから内面の変化を促す。(常に面接合格の身なり) ②朝、帰りの SHR を利用しての指導。クラスのリーダーの自主的な呼びかけの促し。(机の上には学習用具以外を置かない、足元に飲み物等を置かない。棚の上のペットボトル、ブレザー等制服を置いたままの生徒へ注意指導) ③個人ロッカーの整備		
	②勤怠状況の良化	④長欠懸念者等、勤怠状況の悪い(もしくは悪化しそうな)生徒に対し、保護者との連携も含め、早期に対応する。また、学年会での情報交換も行い、共通で理解する。		
	(4)①リーダーの育成	① HR 役員や学年会を通して、リーダーの育成と、生徒の主体的な姿勢を促す。		
	②体験型活動(修学旅行)への積極的参加を促す。	②修学旅行の参加を促し、その体験から個々人の豊かな感性等資質を育む。		
高校 3 学年	(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) 3 学年と各部・各教科との情報交換を密に行う。	A	○進路決定者の中には気の緩みが見られる生徒もいた。担任を始め、授業担当者が根気よく声掛け等を行い、緊張感を持続させる必要がある。
	(2) 進路決定のための指導強化	(2) 生徒支援部との連携を密にし、全員で足並みを統一した指導を行う。	A	
		(3) 教室内の学習環境の整備の徹底。特に机の上は整理整頓を心がける。	B	
		(4) オープンキャンパス、進路ガイダンス、各種説明会等への参加を通して進路の早期決定を促す進路指導の充実を図る。	A	
		(5) 一般・放課後・夏期講座への受講を通して、進学・就職への早朝からの準備を行う。	A	
		(6) スタディーサポートや模試及び支援システムのデータを通して、面談資料として活用し、個に応じた指導の充実を行う。	A	
	(3) 基礎的・基本的な学力の定着	(7) 未習得単位の取得を促す。	A	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題	
教務部	総務	(1) 各部・各教科・各係との連携を図り、円滑な校務運営を目指す。	(1) 各部・各係との事前の打ち合わせ等を密にし、学校行事、会議等の調整を行う。	B B	○定数確保 ○説明会の実施の工夫 ○中学との更なる連携
		(2) 近隣校の中学生に対する学校説明会の企画・実施に努める。	(2) オープンスクールの企画・実施及び、広報に努める。行事	B	
		(3) 中高一貫教育の円滑な運営に努める。	(3) 中学部・各部・学年と協力、工夫をすることで年間の授業日数・時数を確保するとともに、ステージフェスティバルの成功を期して、企画・実施する。	B B	
	行事	(1) 学校行事の精選に努め、年間の授業日数及び時数の確保に努める。	(1) 中学部・各部・学年と協力、工夫をすることで年間の授業日数・時数を確保するとともに、ステージフェスティバルの成功を期して、企画・実施する。	C	
	システム	(1) 校務支援システムと校内 LAN システムを活用し、職員・生徒の支援に努める	(1) 校務支援システムの円滑な運用及びホームページの更新を適時行うよう努める	A B	
	教育課程	(1) 新学習指導要領や学校・生徒の実態に即した教育課程の編成に努める。	(1) 本校の生徒の実態及び特性を考慮し、各教科と検討・調整する。	B B	○新教育課程編成に向けて、各教科と連携して取り組む
	渉外	(1) P T A の協力体制を密にするよう努める。	(1) P T A の活性化のための活動を企画・実施する。	C	
	時間	(1) 時間割、定期考査等の円滑な運用に努める。	(1) 各教科・部署との連携を強化し、定期考査や日々の時鐘の設定を実施する。	A	
	学籍	(1) 単位未履修懸念者、未修得者に対する指導に努める。	(1) 各教科との連携を通して単位未履修懸念者、未修得者に対する指導を強化する	A	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
生徒支援部	生徒指導 (1)教育活動全般において中高連携及び各部・学年との協力体制を確立する。 (2)諸規律を守り、本校生徒としての自覚の促進に努める。 (3)自主的活動を支援し、有意義で楽しい学校生活を送るための環境作りに努める。 (4)家庭・地域社会・関係機関との連携を強化する。 (5)中高生徒の動向に関する情報の共有化を図り、円滑に生徒の支援を進める。	(1)学校教育活動全般において、生徒指導的役割を十分に果たす。	B	○学校生活におけるモラルやマナー（授業態度、携帯使用、器物破損など）の面でも、生徒支援部の指導だけでなく、HRや授業、部活動など、学校生活全体を通して、「積極的指導」を全職員で情報を共有しながら指導体制を整えていきたい。 ○中高連携した取り組みを発展させ、中高一貫校としての生徒支援のあり方について考えていきたい。
		(2)服装容儀・勤怠に関して、年間を通し計画的で一貫した指導を行う。	A	
		(3)時間を守る等の規律ある人材を育成する活動に努め、部活動の活性化を図る。	A	
		(4)PTA、関係機関の取り組みを支援し協力体制を整える。	B	
		(5)週一回の支援部会を中心に随時情報交換の機会を設け、中高連携を密にする。	B	
中高生徒会	(1)生徒一人ひとりの自主性が育つ活動にする。 (2)中央委員会、専門委員会、および学級との連携を強める。 (3)普段から中高生徒会が協力するような体制を構築する。 (4)各種部活動との連携を図るため、部長会を活用する。	高校 (1)リーダー研修などで生徒会役員のリーダー性を育成し、中央委員会を定期的に行い、生徒の自治能力を高める。	A	○生徒会専門委員会の活動の活性化を図っていきたい。 ○部室の清掃を怠っている部活があった。部室チェックをもっと頻繁に行っていきたい。
		(2)HR・中学校との連携を密にし、生徒会行事の計画的運営を行い、活性化に努める。	B	
		(3)生徒会広報「太陽風」の内容の充実と定期発行に努める。	B	
		(4)部長会と中央委員会の連携を強化し、学校行事の活性化に努める。	A	
		中学 (1)中央委員会で、学校生活に関する話し合いを充実させる。	A	
		(2)専門委員会で、月目標の具体的実践・評価を行う。	A	
		(3)高校との合同行事は、連携を密にして計画的に行う。 ①おそうじ大会②リーダー研修③ステフェ④各種式等	A	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
生徒支援部 環境美化	(1) 諸施設設備の管理・運営・保全に努める。 (2) 諸施設設備の有効な利用を図る。 (3) 校内の緑化、庭園の維持、推進を図る。 (4) 校内外の美化、清掃の徹底を図る。 (5) 生徒・職員共に、緑に親しむ。	(1) 美化委員会活動の活性化	A	○充実した清掃用具配置とはいかなかった。 ○発行できていない月があった。
		(2) 芝生の管理と樹木の剪定、追肥の実施	A	
		(3) 清掃用具・施設設備の点検	B	
		(4) 庭園の管理とプランター等を利用しての花いっぱい緑化活動	A	
		(5) 室内スリッパ使用の徹底	A	
		(6) 環境美化に関する広報活動（緑風）の充実	B	
保健教育相談	(1) 病気の早期発見、早期治療を目的に健康診断を実施し、個々の生徒に応じた保健指導を行う。 (2) 教育相談活動を通して生徒のより深い理解を図り、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。 (3) 健康安全に関する啓発を行う。 (4) 救急体制を整える。 (5) 中高の連携をより密にする。	(1) 定期健康診断を実施する。	A	○1年間、保健室・教育相談へのご協力ありがとうございました。
		(2) 学校医・学校歯科医と連携した健康相談及び保健指導を実施する。	B	
		(3) スクールカウンセラー、関係機関、職員、保護者等と連携して教育相談を進め、チームで支援する。	A	
		(4) 教育相談アンケートを実施する。	A	
		(5) 生徒が自発的に来談できるよう工夫する。	A	
		(6) 保健日より、相談だよりを発行する。	A	
		(7) 「性・エイズ」「薬物乱用防止」「思春期」について統一LHRを実施する。	A	
		(8) 救急法講習会を実施する。	A	
		B		

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
生徒支援部	生徒指導 (1)教育活動全般において中高連携及び各部・学年との協力体制を確立する。 (2)諸規律を守り、本校生徒としての自覚の促進に努める。 (3)自主的活動を支援し、有意義で楽しい学校生活を送るための環境作りに努める。 (4)家庭・地域社会・関係機関との連携を強化する。 (5)中高生徒の動向に関する情報の共有化を図り、円滑に生徒の支援を進める。	(1)学校教育活動全般において、生徒指導的役割を十分に果たす。	B	○学校生活におけるモラルやマナー（授業態度、携帯使用、器物破損など）の面でも、生徒支援部の指導だけでなく、HRや授業、部活動など、学校生活全体を通して、「積極的指導」を全職員で情報を共有しながら指導体制を整えていきたい。 ○中高連携した取り組みを発展させ、中高一貫校としての生徒支援のあり方について考えていきたい。
		(2)服装容儀・勤勉に関して、年間を通し計画的で一貫した指導を行う。	A	
		(3)時間を守る等の規律ある人材を育成する活動に努め、部活動の活性化を図る。	A	
		(4)PTA、関係機関の取り組みを支援し協力体制を整える。	B	
		(5)週一回の支援部会を中心に随時情報交換の機会を設け、中高連携を密にする。	B	
中高生徒会	(1)生徒一人ひとりの自主性が育つ活動にする。 (2)中央委員会、専門委員会、および学級との連携を強める。 (3)普段から中高生徒会が協力するような体制を構築する。 (4)各種部活動との連携を図るため、部長会を活用する。	高校 (1)リーダー研修などで生徒会役員のリーダー性を育成し、中央委員会を定期的に行い、生徒の自治能力を高める。	A	○生徒会専門委員会の活動の活性化を図っていきたい。 ○部室の清掃を怠っている部活があった。部室チェックをもっと頻繁に行ってほしい。
		(2)HR・中学校との連携を密にし、生徒会行事の計画的運営を行い、活性化に努める。	B	
		(3)生徒会広報「太陽風」の内容の充実と定期発行に努める。	B	
		(4)部長会と中央委員会の連携を強化し、学校行事の活性化に努める。	A	
		中学 (1)中央委員会で、学校生活に関する話し合いを充実させる。	A	
		(2)専門委員会で、月目標の具体的実践・評価を行う。	A	
		(3)高校との合同行事は、連携を密にして計画的に行う。 ①おそうじ大会②リーダー研修③ステフェ④各種式等	A	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
生徒支援部 環境美化	(1) 諸施設設備の管理・運営・保全に努める。	(1) 美化委員会活動の活性化	A	○充実した清掃用具配置とはいかなかった。 ○発行できていない月があった。
	(2) 諸施設設備の有効な利用を図る。	(2) 芝生の管理と樹木の剪定、追肥の実施	A	
	(3) 校内の緑化、庭園の維持、推進を図る。	(3) 清掃用具・施設設備の点検	B	
	(4) 校内外の美化、清掃の徹底を図る。	(4) 庭園の管理とプランター等を利用しての花いっぱいの緑化活動	A	
	(5) 生徒・職員共に、緑に親しむ。	(5) 室内スリッパ使用の徹底	A	
		(6) 環境美化に関する広報活動（緑風）の充実	B	
保健教育相談	(1) 病気の早期発見、早期治療を目的に健康診断を実施し、個々の生徒に応じた保健指導を行う。	(1) 定期健康診断を実施する。	A	○1年間、保健室・教育相談へのご協力ありがとうございました。
		(2) 学校医・学校歯科医と連携した健康相談及び保健指導を実施する。	B	
	(2) 教育相談活動を通して生徒のより深い理解を図り、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。	(3) スクールカウンセラー、関係機関、職員、保護者等と連携して教育相談を進め、チームで支援する。	A	
		(4) 教育相談アンケートを実施する。	A	
		(5) 生徒が自発的に来談できるよう工夫する。	A	
	(3) 健康安全に関する啓発を行う。	(6) 保健日より、相談だよりを発行する。	A	
	(7) 「性・エイズ」「薬物乱用防止」「思春期」について統一LHRを実施する。	A		
(4) 救急体制を整える。	(8) 救急法講習会を実施する。	A		
(5) 中高の連携をより密にする。		B		

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
事務部	(1) 光熱水費の削減に努める。 (2) 快適な学習環境、執務環境を整備する。 (3) 中高合同行事を充実させる（PTA）	(1) 計画的かつ合理的な予算執行を行う。	A	(1) 教職員及び生徒の協力により、光熱水費は例年通りの予算枠に抑えることができた。 (2) 各部署からの要求に対して、予算調整を図り、効率的な執行が行えた。
		(2) 事務職員研修への積極的参加と事務職員相互の研鑽に努める。	A	(1) 分掌ごとの研修への参加、学校間の相互点検を行うなど、資質向上に努めることができた。
		(3) 校納金（学校徴収金・団体徴収金）の徴収体制を確立し適切な予算執行に努める。	A	(1) 情報の共有を図り、徴収並びに執行がスムーズに行うことができた。
		(4) 地域行事等に積極的に参加する。	A	(1) 屋慶名ハーリーや周年事業に係る行事への参加を図った。

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
各教科	国語科	(1) 生徒の実態に合わせた習熟度別授業を展開し、個々の生徒の学力向上を図る。	A	○大学入試共通テストへの取り組み
		(2) 適切に表現する能力を養い、伝え合う力を向上させる。	A	
		(3) 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めさせる。	B	
		(4) 読書活動の推進。	B	
		(5) 諸コンクールへの応募の奨励。	A	
		(6) 指導内容・技術向上の為、科目別・学年別授業担当者の連携を緊密にする。	A	
地歴公民科	(1) 年間指導計画に基づく授業実践	(1) ICT機器を用いた授業展開	B	○ICT機器を使用しての授業は、HR教室の危機の設置は進んだが、未設置のHR教室もあり、使用できる環境を整備していきたい。 ○少人数での受験対策指導は厳しいが、今後も地歴（日本史・地理）、公民（現社 or 政経）科目で対応し、効果ある指導を工夫していきたい。
		(2) 地域素材の教材化など、生徒が興味・関心をもつ授業実践	B	
		(3) 教材研究の充実と、生徒がわかる授業の展開	B	
		(4) 選択制授業の取り入れ、生徒個人個人に応じた指導の工夫	B	
		(5) 中高職員間の情報交換の充実と授業の連携	B	
		(1) 週1回の教科会（中高合同）の開催	B	

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	
各教科	数学科	(1) 中高の連携を通して、目標を持ち主体的に学習する生徒の育成を図り、学びの質を向上させる。	(1) 中学1・2年生はTT授業で、中学3年生は中学・高校の職員で習熟度別授業を展開する。	A	○今年度同様に、教科で連携を取りながら、生徒の進路に応じた授業をおこなっていききたい。 ○中学3年生の習熟度別授業の展開の仕方を研究・工夫していききたい。 ○模試の結果を見て、演習や週末課題の内容などを工夫していききたい。
		(2) 確かな学力を身に着けさせるために、数学における基礎的、基本的な知識・技能を徹底的に反復し習得させる。	(2) 定期考査ごとに補習授業を行い、既習事項の定着を図る。	A	
		(3) 生徒個々に応じた希望進路を実現できるよう支援する。	(3) 習熟度別授業をはじめ、選択授業で生徒の進路に応じた授業を展開する	A	
	理科	(1) 実験・実習の充実を図る。 (2) 個々の進度にあわせた学習支援を行う。	(1) 野外実習の実施。	A	
			(2) 生徒の実態にあった教材教具の開発。	B	
			(3) 生徒との密なコミュニケーションを図る。	A	
			(4) 単位習得を目指して補習等の対策を行う。	A	
	体育科	(1) 自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得することが出来る (2) 運動の実践を通じて公正、協力、責任などの態度を身につける (3) 運動種目の特性を理解し、その特性に応じて自己やグループに適した課題解決を目指す (4) 各種の運動を適切に行い、その特性に応じた技能を身につけ生涯スポーツに繋げる	(1) 集団行動で機敏な行動を定着させる。	B	
			(2) 各種目における実態把握を行い実態に合った授業の工夫を行う。	A	
			(3) 種目に応じて個人指導や学び合いを行う。	A	
(4) 安全に運動が行えるよう施設や用具の管理徹底。			A		
(5) 体力向上を目指し、生涯スポーツに繋げる			A		

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	
各教科	芸術科 〔音楽〕 (1)歌唱や器楽演奏を通して、読譜力や奏法を身につけさせ、表現力を伸ばす。 (2)授業の充実を図る。	(1)使用する楽譜において基礎的事項を確認し、筆記試験や演奏発表を実施する。	A	○音楽室の掲示物が購入でき環境改善ができました。 ○作品展示への場所提供ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。 ○年間計画通りに進めてほしい。 ○急な時間割変更で（1時間だけの時もあった）大変だった。	
		(2)クラスの状況に即した題材も取り入れ、生徒の意欲を盛り上げる。	A		
	〔美術〕 (1)創造活動を通して感性を高め、表現と鑑賞の能力を伸ばす。 (2)各種コンクールに取り組み、作品制作の意欲向上を図る。	(1)題材において、生徒個々が積極的に創造活動に取り組める指導の工夫。	A		
		(2)作品の発表・展示を随時行い、作品制作への意欲を高めさせる。	A		
	〔書道〕 (1)書体や及び書道史を理解させ、鑑賞力・創造力を養う。 (2)各種コンクールに取り組み、作品制作の意欲向上を図る。	(1)生徒個々が積極的に作品作りに取り組める指導の工夫。	A		
		(2)作品の発表・展示を随時行い、作品制作への意欲を高めさせる。	A		
	情報科	(1)教材の工夫と実習の充実	(1)実習の形態を工夫（グループ学習を活用）		A
		(2)各種検定の実施	(2)放課後講座等で検定に対応する。		A
	家庭科	(1)実験・実習の充実	(1)課題解決学習等の導入		A
			(2)教育機器を活用した授業の工夫、研究を行う		A
(2)授業や教材の工夫、研究を行う		(3)食物調理技能検定を実施し、技術の定着を図る	A		
		(4)各種研修に参加し、指導力の向上を図る	A		
		(5)アクティブラーニングの実践	A		

平成31年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

平成30年度与勝高等学校学校自己評価

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
各教科 英語科	(1) 語彙力増加の指導の統一徹底を図る。	(1) 定期的に英単語テストやコンテストを実施する。	A	○学年進行につれて2極化の傾向が見られるため、下位層及び中間層の基礎学力の定着を図る。 ○生徒が英語で発信する機会を多くするための手立てを工夫する。 ○中高6年間の指導法や指導体制を確立させる。 ○共通テストに向けての対策をする。
	(2) 授業や教材、評価方法の工夫・研究を行う。	(2) 英語を活用した授業展開に努める。	B	
		(3) A L T や中高間の連携を深め、効果的な授業の取組を行う。	A	
		(4) 教育機器を活用した授業の工夫・研究を行う。	A	
	(3) 各種試験に向け取り組みを強化する。	(5) 留学や各種コンテストに積極的に取り組ませる。	B	
		(6) 英語検定を積極的に受験させ、合格者を増やす。	A	
		(7) 受験等の対策講座や授業等での指導の工夫を図る。	A	
	(4) 大学入学共通テスト英語の4技能向上の指導研究をする。	(8) 各種研修に参加し指導力向上を図る。	A	
		(9) 2年生特進クラスを対象にGTECを実施する	A	